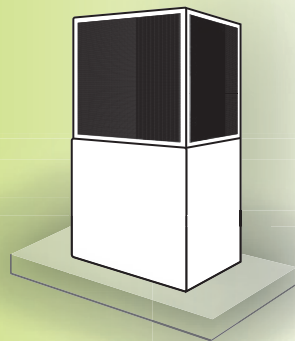




# 空調室外機の防錆



**錆**は、一度発生すると内部に浸食し続けます。

補修で錆を完全に除去することは困難で、なおかつ補修に高いコストが発生します。

空調室外機も、設置前に「耐塩害処理」は、長期的にコスト安と考えられます。

しかし、「塗料の選択」を間違えると、せっかくの投資が無駄になり、不要な補修コストが発生します。

空調室外機に適した「塗料」を選択することが重要となります。

当然ですが、塗料は「密着」していなければなりません。塗料が剥がれると、錆の原因となります。

空調室外機は稼働時に振動があり、この振動が塗装の「はがれ」の原因となる場合があります。

また屋外で暴露される室外機にとって、塗料の「色あせ」、「変色」、「チョーキング」（表面に粉などが発生する状態）、塗装の「はがれ」の原因となり、錆の発生原因となります。つまり「密着性」と「耐候性」は重要な要素なのです。



GMC-1000 20L

本来車両用に開発された **GMC-1000** は、**非鉄金属**（ステンレス・アルミニウム・銅・真鍮・亜鉛など）にプライマー処理無しで直接塗装が可能で、なおかつ「耐振動」「耐衝撃性」にも優れており、乾燥後の塗膜は90度に曲げても割れない程の柔軟性があります。外板部分の表面（下塗り）、裏側、底部、内部の枠組み部分などに効果的です。



MCP-3000SP  
エアゾールタイプ

**MCP-3000** は、鋼板はもちろん、**非鉄金属**（ステンレス・アルミニウム・銅・真鍮・亜鉛など）にプライマー処理無しで直接塗装が可能で、薄い膜厚（平均15-20マイクロン）で、「しっかりと密着」し保護します。

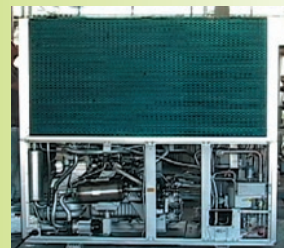
「耐候性に優れた」アクリル樹脂の特徴に加え、フッ素/シリコンを配合した **MCP-3000 (クリアー)** は、既に別の塗料（フタル酸・ウレタン樹脂・アクリル樹脂・エポキシ樹脂塗料等 ※タール系およびエナメル樹脂を除く）の塗装面に本来の塗装色を変えることなく、そのまま **色褪せ防止剤**、として上塗り可能で、外板部分の表面（上塗り）として最適です。

太陽光の厳しい沖縄での20年に渡る実績は、その証（あかし）とも言えます。（耐候性テスト720時間=95%/1500時間=94%）

また薄い膜厚で高密着する **MCP-3000 (ブルー)** は**熱交換フィン**の防錆/腐食防止に最適です。

## ○沖縄での主な実績/納入先

那覇空港、沖縄県庁舎、読谷村役場、国頭村役場、琉球大学、沖縄国税事務所、那覇市消防局、那覇警察、宮古警察、沖縄記念公園、防衛庁（那覇基地、久米島、宮古島分屯基地）、海上保安庁（那覇航空基地）、那覇電波観測局、ひめゆり平和祈念資料館、琉球大学付属病院、沖縄赤十字病院、沖縄県立看護学校、沖縄盲学校、佐敷中学校、沖縄県立博物館、沖縄グランドキャッスルホテル、万座ビーチホテル、久米アイランド、タワービーチホテル、日航アリビラ、ブセナリゾート、ラグナガーデンホテル、琉球石油、沖縄電力など 年間平均 約1000-1200台



近年、家庭だけでなく職場、工場などでも空調設備が整っています。それと共に、「今までになかった腐食」が問題となっています。

ウォーターフロントでは海風による「塩害」、工場では化学品/ガス/薬品による「腐食」、

温泉地では硫黄（イオウ）や亜硫酸ガスなどによる「腐食」の被害が生じています。

鉄製品だけでなく、非鉄金属（アルミ、ステンレス）などの腐食（白亜化）問題も生じています。

フッ素/シリコンを配合した **MCP-3000** は密着性、耐候性に加え、工場、温泉地での

**耐薬品、耐ガス性**にも優れた効果を発揮し、外板、熱交換フィンだけでなく「室内機」、「銅管」、「電子基板」などにも効果的です。

防錆塗料の評価は、塗装時のコストだけでなく、「塗り替え」、「補修」を含めた数年単位でのトータルコストを考慮する必要があります。（※右図参照）

たとえ塗装時はコスト安であっても、その後のメンテナンス、補修費用で最終的にコスト高になってしまう可能性もあります。

**GMC**（グリーンメープルケミカル）の塗料は、「空調室外機」だけでなく、車両（普通乗用車、大型「バス、トラック」、重機など）、建築物など幅広い分野で高く評価され、今では沖縄、北海道だけでなく全国にて、ご使用して頂いております。

